

# 2019 年度 センター試験 倫理（本試験） 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：36 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	○ 変化なし    ● やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p><b>総評</b>                  大問数、各大問の問題数、出題分野の構成は昨年と同じであった。昨年と比べると、選択肢 3 つの組み合わせ問題が 7 題から 1 題に減少し、選択肢 2 つの組み合わせ問題が 1 題から 4 題に増えた。全体的に、選択肢組み合わせ問題が減少し、8 択問題がなくなって 6 択問題となった。昨年同様、出題頻度の低い人物や用語も見られたが、問題の難易度としては標準的である。全体としては、選択肢の組み合わせ問題が減少したため、昨年よりもやや易化したと言えよう。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	現代社会の諸問題・青年期の心理	28 点	昨年は 2 人の会話が題材であったが、今年は 3 人の高校生が家族を巡って議論する文章が題材となった。問 2 の着床前診断、デザイナー・ベビー、代理母出産に関する記載、問 7 の小林秀雄、坂口安吾は見慣れない用語・人名であったが、全体としては標準的な難易度の問題であった。
第 2 問	源流思想	24 点	癒しが主題である文章に基づく設問。問 5 は、古代インドの自由思想家と墨子の薄葬に触れている点がやや難しいと言えるが、正答を導く上では特に問題ないものであった。その他は基本的な知識を押さえていれば解ける問題がほとんどであった。
第 3 問	日本の思想	24 点	心と行為の関わりが主題である文章に基づく設問。問 4 の「いき」（2017 年度に出題あり）、「つう」に関する問題は難しかったであろう。問 6 の会沢正志斎も難問だが、吉田松陰の思想がわかれば解答できる。問 8 の西田幾多郎は少し突っ込んだ設問である。全体的には標準的な難易度である。
第 4 問	西洋近現代思想	24 点	「ある日突然、恋に落ちた。」という印象的な出だしから始まる運命についての論述である。問 4 のヘーゲルの絶対精神の内容と、問 7 のダーウィン、特にスペンサーの思想は少し難問だったかもしれないが、組み合わせ問題も減少しており、全体の難度としては例年と変わらない水準であった。